

はじめてのこと

大橋 利恵子

たちはさぞめいわくであったらうと、今になってにやにやしてしまします。

先日、名古屋の公立幼稚園で楽しい経験をしました。昨年生まれ育った東京を離れ、大垣にとついだ私は、十月ぶりに名古屋で臨時就職したのです。が、東京で二年間保育の経験があると、いっても何もわからない状態です。まして新しい土地で、初めての子どもたちです。たった一日の代理先生でしたが、少々固くなっていたようです。お天気がよいので庭に出て遊ぶことにし、数人の女の子と「花いちもんめ」を始めました。最初のころは歌詞が思い出せなかったのか、ほとんど私がリードし、一人で歌っていました。東京でやっていた時と同じ様に「鬼がこわくていかれない」と調子よく足を出し

ながら。ところがしばらくして、子どもたちも調子をあげてくると、どうも歌が違うのです。「鬼がこわくていかれない」という所が、「鬼がこわくてよういかん」なのです。考えてみれば、名古屋の子どもたちが土地の言葉で「よういかん」と歌うのはごくあたりまえのことなのですが、初めて聞いた私はびっくり、すぐに順応して「よういかん」にすればよいものを、なぜかかたくなに一人、「いかれない」と歌い続けておりました。あとでその園の先生方とこの話をし、大笑いしてしまいました。先生方もやはり「よういかん」でなくては調子が出ないそうで、「、かれない」とやられた子ども

すべてが「初めて」の今の私は、毎日がこんなことの連続です。何事によ「初めて」の時の気持ちは不安と期待のいりまざった何とも複雑なものです。慣れてしまつてから思えば、なぜあんなことを……と思うこともあれば、また、最初はあんなだったのに……と感慨深い思いをすることもあります。とるにたらない小さなことにせよ、初めての時の感情は新鮮であり、大切ではないでしょうか。今私は、小さな小さなことひとつひとつにおどろきながら、この土地の子どもたちの世界に入りこみたいと切に願っております。

(元 東京都文京区立汐見幼稚園)